



それは偶然のエピローグ。
映像学科の編集授業で隣りになった。
彼女の息づかいを感じる距離。
友達になりたいとドラマはスタート。

馬杉 雅喜 × 千富美 × 千陽

UP! SPECIAL HAPPY is FAMILY vol.7

UP! SPECIAL
HAPPY is
FAMILY

雅喜さんの趣味はボーリング。アクロバティックな
投げ方をするボーリングで民放各社から取り上げられる。

ハイスコア 250 アベレージ 170

株式会社シネマズ・ギックスという映像制作会社の
社長兼ディレクター。やるやん、お父さん。



娘の千陽ちゃんは3〜5歩なら歩けるようだ。これが二人にとって
はたまらなく嬉しい。撮影の間も彼女は一度も泣かない。
それどころかお父さん、お母さんに抱かれながら笑顔を見せる。
この子に芝居を仕掛ける俳優はいつ現れるのだろうか。

二人はSHASENの映像学科の同級生。卒業して8年ほどだろうか。
それは編集室で事件が起こった。わたし雅喜(31)の隣には可愛い女の子がいる。
パソコンのマウスを握る手がやや興奮状態。
この人は誰だろう。名前は？
どこに住んでいるのだろうか？神からのミッションのように遂行に入る。
どうやら大阪の大正区から通っているらしい。当時の学校は北加賀屋にあつて、千富美さん(29)は渡し船に乗って登校しているとの情報をキャッチ。その渡し船を探さなくては。以外にも簡単に渡し船が見つかり、彼女の帰りに用も無いのに渡し船に同船。
二人の距離がどんどん近くなり、お付き合い成功。渡し船の水面がハートの波紋を広げる。
学校の課題で帰りが遅くなり渡し船も最終便が出てしまった。川の向こうは夜の帳が降りたシレットの工場。ネクスト作戦第三弾。彼女を

送っていくために眼鏡橋を二人で歩く。彼女の
手がわたしの手を握る。渦巻きのようにグルグル巻きの橋は4段あるが、このときは40段ほどあつて欲しいと願う。大正区の背景はパリの裏通りにセットが変わる。キラキラ輝く数年のときが流れ、プロポーズのシーンに場面は入る。サプライズで彼女を驚かそうとライター馬杉は筋書きを用意して彼女を地元の京都・桂駅に呼ぶ。現場では監督、音響、照明スタッフは揃った。「よーい、スタート」カチンコが鳴る。雅喜のセリフはひと言「結婚して下さい」しかし、撮影はNG。「こんなオモチャみたいなコトは止めて」主演女優は超不機嫌に。それでも愛は強し。やがてウエディング・ベルが鳴る。現在は千陽ちゃん(1歳半)のパパとママ。千陽ちゃん、パパを「まーまー」とママを「カー」と呼ぶ。彼女が主役のハッピー・ドラマは始まっている。(は)